

## 2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

 2021年11月11日  
 上場取引所 東

上場会社名 株式会社ファインデックス  
 コード番号 3649 URL <https://findex.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 相原 輝夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 藤田 篤 TEL 089 (947) 3388  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第3四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	3,513	18.4	703	38.3	721	40.4	485	41.6
2020年12月期第3四半期	2,967	△16.4	508	△41.6	513	△41.2	342	△42.4

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 484百万円 (41.3%) 2020年12月期第3四半期 342百万円 (△42.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	18.95	—
2020年12月期第3四半期	13.39	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円
2021年12月期第3四半期	4,060	3,359	82.6	131.17
2020年12月期	3,796	3,073	80.8	119.84

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 3,352百万円 2020年12月期 3,068百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	2.50	—	5.50	8.00
2021年12月期	—	2.50	—	—	—
2021年12月期（予想）	—	—	—	5.50	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	14.9	1,010	58.7	1,010	57.0	700	62.6	27.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）フィッティングクラウド株式会社、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期3Q	26,608,800株	2020年12月期	26,608,800株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	997,275株	2020年12月期	1,003,875株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期3Q	25,607,236株	2020年12月期3Q	25,603,917株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
3. 補足情報 .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、総合医療システム及び医療機器を自社開発し全国の大規模病院や中小規模医療機関へ提供すると同時に、自治体、公社や組合などへ向けたオフィスシステムの提案・導入や、ヘルステック、医療クラウド領域における新規事業に取り組んでおります。当領域では新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン診療の導入や医療用ロボットの活用など、これまで以上にICT（情報通信技術）やAI（人工知能）を駆使した非接触型の診療が広まりつつあります。また、日本政府による医療従事者の長時間労働の見直しや、国民全員に平等な医療サービスを提供する体制作りが注視されていることから、医療機関での最先端技術を活用したシステムの積極的な導入が益々期待されています。

当第3四半期連結累計期間（2021年1月1日～2021年9月30日）における売上高は3,513,670千円（前年同期比18.4%増）となりました。また、営業利益は703,438千円（同38.3%増）、経常利益は721,061千円（同40.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は485,204千円（同41.6%増）となりました。

通期計画に対しての達成率は、売上高が76.4%、営業利益が69.6%、経常利益が71.4%、親会社株主に帰属する四半期純利益が69.3%です。

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは世界中の経済活動や日常生活に制限をもたらし、当社がコア事業を展開する医療業界にも多大な影響を及ぼしています。本年度はシステムの更新時期を迎える取引先が多い一方、今後感染者数が大幅に増加した場合、医療機関の状況により新規システムの受け入れ体制が変化する可能性がございます。その際、経営成績の変動が見込まれる場合には、速やかに開示いたします。

パンデミック下での社内対応においては、ESG経営の観点からも緊急事態宣言発令の有無を問わないリモートワーク制度の恒久的な導入や、オンライン会議の活用など、感染防止対策を徹底しステークホルダーの安全確保に努め、医療、人々の健康を支える企業としての社会的責任を果たしてまいります。

セグメント別（連結）の経営成績は、以下のとおりであります。

(a) 事業セグメント別の売上高

(単位：千円)

セグメント	2020年12月期 第3四半期	2021年12月期 第3四半期	増減額	増減率
システム開発事業	2,950,902	3,482,853	531,951	18.0%
ヘルステック事業	18,518	33,045	14,526	78.4%

(b) 事業セグメント別の営業利益

(単位：千円)

セグメント	2020年12月期 第3四半期	2021年12月期 第3四半期	増減額	増減率
システム開発事業	665,605	862,611	197,006	29.6%
ヘルステック事業	△156,933	△159,173	△2,239	-

《システム開発事業》

システム開発事業の経営成績は、売上高3,482,853千円（前年同期比18.0%増）、セグメント利益（営業利益）862,611千円（同29.6%増）となりました。

○ 医療システム

画像ファイリングシステム「Claiio」や文書管理システム「DocuMaker」に代表される当社製品は、高度な医療を提供する大規模病院において高い評価と安定したシェアを維持し、病院の中核システムとして診療に欠かせない重要な役割を担っております。当第3四半期連結累計期間は病院案件65件及び診療所案件56件の新規導入・追加導入及びシステム更新を実施しました。

本年度は、電子カルテや会計、物流管理、勤怠管理など30を超えるシステムからデータを集約し横断的な抽出検索を可能にすることで、診療の質の向上と病院経営の効率化を実現するシステム「Universal Searcher」（商標登録出願中）を開発し、都内の大規模ナショナルセンターへ導入いたしました。大規模病院では同様のニーズの高まりが予想されることから、来年度以降積極的に販売を拡大する予定です。

また、診察管理と電子カルテのシステム連携が必須である、大規模病院でのオンライン診療システムの構築は運用のハードルが高く、市場での製品化が遅れていました。それを解決する大規模病院向けオンライン診療システム「On診（おんしん）」（商標登録出願中）を開発し、第4四半期中の本格稼働を見据えて、都内の大学病院へ導入いたしました。これにより、従来型のサービスのようにより市販の会議システムやビデオ通話を利用することなく、クラウドのサーバを介し、一施設で同時に100を超えるオンライン診療コントロールが可能になりました。他の医療機関へ向けると来年度より販売を本格化いたします。

なお、クラウドソリューションの提供を主業とする子会社のフィッティングクラウドは、7-9月期で一次側クラウドサービス事業者とのパートナー契約を締結し、京都大学医学部附属病院に対するGCP（注1）を利用した、診療科向けネットワークストレージサービスの提供を開始しました。また、日本医療研究開発機構（AMED）や学会が進めるデータ収集事業のクラウド基盤構築を行いました。来年度に向けては、更なるサービスの拡充を予定しております。

（注1）GCP：グーグルクラウドプラットフォーム、Google社が提供するクラウドコンピューティングサービス

○ オフィスシステム

当セグメントでは文書管理システム「DocuMaker Office」を中心とする製品販売に取り組んでおります。DX推進の流れにより各自治体が電子決裁や公文書管理システムの導入を検討し始めたことから、自治体向けパッケージ・医療機関向けパッケージ共に問い合わせや商談件数は増加しております。本事業は本年度の売上高目標に対し順調に進捗しており、第3四半期連結累計期間中は3件の新規導入や1件の追加導入を実施し、累計12,394千円の売上を達成いたしました。

また、都内の大規模ナショナルセンターにて大型導入案件が現在進行中です。当プロジェクトに採用された製品は、従来の申請決裁機能に加え、決裁情報を複数システムへ連携し、大規模病院における煩雑な事務処理の自動化を可能にする「大規模病院向けDocuMaker Office」として開発したもので、月間3,000件を超える申請をペーパーレス化し、大規模病院で期待される「一つの申請から派生する複数業務の自動化」を実現するシステムです。

一方、総務省の自治体行政スマートプロジェクトに参加し、文書管理・電子決裁以外の新たなニーズにも取り組んでおります。コニカミノルタ社との協業も進んでおり、電子簿冊サービス「DocuMaker Shelf」などの提供により、自治体におけるペーパーレスやDX推進を支援します。

このように、医療領域でも当社の既存ユーザーである大規模・中規模医療機関を中心に販売を拡大し、病院のバックオフィスを支援するクラウド型サービスとして、デファクトスタンダードの地位を確立してまいります。

《ヘルステック事業》

ヘルステック事業の経営成績は、売上高33,045千円（前年同期比78.4%増）、セグメント損失（営業損失）159,173千円（前年同期のセグメント損失156,933千円）となりました。

○ 視線分析型視野計

当セグメントにおいては、視線分析型視野計「GAP」（注2）の国内販売を本年4月1日に開始いたしました。GAPは、元来の検査手法とは全く異なるアプローチを用いて視野を測定することで、可用性を高め初期の自覚症状に乏しい緑内障などの網膜疾患の早期発見率の向上にも寄与する、安価で画期的なウェアラブルデバイスです。本製品はこれまで検査の際に必須であった暗所の確保・習熟した検査員による実施を不要とし、検査時間の短縮や患者の負担軽減を実現しました。更に、これまで取得されなかった初期の視野データを蓄積し、国内外の研究開発機関と共有することで、製薬や生命保険領域など様々なフィールドでの技術・サービス革新への寄与が期待されます。企画から販売まで当社が一貫して行い、既に複数の国内医療機関にて採用済みであり、直近では本年9月に第32回日本緑内障学会への出展も行ってまいります。海外販売に向けた準備も、事前に策定したビジネスプロセスに則り概ね順調に推移しています。各地域において強固な販売網を持つパートナー社との協業を通じ、来年度初旬に現地の薬事承認の目途が立っているヨーロッパでの発売を皮切りに、順次展開予定です。

加えて、近年の京都大学との共同研究で本製品が視野異常のみならずMCI（早期認知症）の発見にも有用であることが判明しました。AMEDの令和3年度 医工連携・人工知能実装研究事業において「視点反応・眼球運動のデジタルフェノタイプを活用した軽度認知機能異常スクリーニングプログラムの研究開発」が採択され、今後数年をかけた新たな医療機器として医療現場に投入される予定です。高齢化社会の大きな問題解決に様々な角度から取り組んでまいります。

（注2）GAP：ゲイズアナライジングペリメーター、医療機器製造販売届出番号 38B2X10003000002

子会社・EMC-Healthcareの取り組みは、以下のとおりであります。

○ 午睡モニタリングシステム

映像解析AI領域においては、午睡（注3）時の見守りと記録業務支援を目的としたモニタリングシステム「ベビモニ」を販売しております。本製品はカメラ映像をAIで解析することで、同時に複数乳幼児の午睡見守りを可能にしました。2020年11月に開催された「BabyTech® Award Japan 2020 powered by DNP 大日本印刷」では、コロナ禍の時期にあつて非接触型であることのメリットや、AIを活用した現場への貢献度が評価され、安全対策と見守り部門の優秀賞に選出されました。これまでの首都圏での販売に加え、第1四半期連結会計期間より全国展開を開始し、既に中国・九州等他地域での販売実績が出始めております。また、販売取次店での取り扱いや大手保育ICT事業者とのシステム連携を進めることで、本年度から引き合いが急増しております。2021年10月には次世代機を投入して、午睡時の室内環境をセンシングする機能を追加します。これまで以上にデータを取得・分析することでさらなる付加価値向上を目指します。

（注3）午睡：保育園における乳幼児のお昼寝

○ 介護DXサービス

介護領域では、新たな製品であるDXサービス「OwlCare」を開発しております。昨今の介護施設では、巡回や見守りなどの夜間業務の負荷軽減と、介護の質向上の両立が喫緊の課題です。当製品を通じて様々なセンサーとナースコールシステムを統合することで、入居者の健康状態を見守りつつ、介護スタッフの負荷軽減が可能になります。併せて介護スタッフの確保や効率的なスタッフの配置といった、経営上の課題解決にも貢献します。「OwlCare」は、これまでEMC Healthcareが培ったセンサー技術、カメラ技術、画像解析技術、AI・データ分析技術など様々な技術を集結した製品であり、来年度以降の本格的な市場投入を目指しています。

○ 健康管理サービス

健康管理領域においては、新型コロナウイルス感染症対策向け健康管理サービス「Wellness Passport」を開発、販売を開始しました。本製品は、スポーツ大会や各種イベントの開催前から参加者各自が健康データを登録・管理し、当日の本人確認や直近の健康データを非接触でチェックする管理システムです。本製品を通じてイベント参加者や運営スタッフ、地域の方々など、様々な関係者の安全に配慮するとともに、スムーズなイベント運営を実現します。2020年10月に開催された「九十九里トライアスロン大会」をはじめ、複数大会にて採用され好評を頂いており、ニューノーマルに対応する製品として、今後も更なる開発及びユーザーの獲得を行ってまいります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、4,060,167千円となり、前連結会計年度末と比較して263,253千円増加しました。これは、現金及び預金の減少181,599千円に対し、受取手形及び売掛金の増加142,201千円及び商品及び製品の増加131,472千円を主な要因とする流動資産の増加65,790千円と、出資金の増加112,550千円を主な要因とする固定資産の増加197,463千円によるものであります。

負債は、700,638千円となり、前連結会計年度末と比較して22,989千円減少しました。これは主に、前受金の増加10,420千円に対し、未払金の減少53,216千円を主な要因とする流動負債の減少30,198千円と、長期前受金の増加10,974千円を主な要因とする固定負債の増加7,209千円によるものであります。

純資産は、3,359,528千円となり、前連結会計年度末と比較して286,243千円増加しました。これは、主に利益剰余金の増加278,944千円による株主資本の増加284,036千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期通期の連結業績予想につきましては、既に新型コロナウイルス感染症の影響を2021年2月10日の通期決算短信発表時に織り込み済みであり、現段階で変更はありません。

当該感染症の収束見込みや、医療機関の新規システム受け入れ体制の状況等により、業績の変動が見込まれる場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,101,330	1,919,730
受取手形及び売掛金	706,846	849,048
商品及び製品	108,381	239,854
仕掛品	49,820	24,694
原材料及び貯蔵品	153,664	148,638
その他	30,927	34,795
流動資産合計	3,150,971	3,216,761
固定資産		
有形固定資産	73,518	81,612
無形固定資産		
ソフトウェア	281,519	246,507
その他	344	344
無形固定資産合計	281,863	246,851
投資その他の資産	290,559	514,942
固定資産合計	645,941	843,405
資産合計	3,796,913	4,060,167
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	24,635	31,561
短期借入金	-	10,000
未払金	174,729	121,513
未払法人税等	123,526	127,466
その他	211,255	213,406
流動負債合計	534,147	503,948
固定負債		
株式給付引当金	142,439	138,540
その他	47,041	58,149
固定負債合計	189,480	196,690
負債合計	723,628	700,638
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	254,259	254,259
資本剰余金	224,259	224,259
利益剰余金	3,415,181	3,694,126
自己株式	△825,158	△820,066
株主資本合計	3,068,542	3,352,578
新株予約権	4,743	4,743
非支配株主持分	-	2,206
純資産合計	3,073,285	3,359,528
負債純資産合計	3,796,913	4,060,167

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,967,136	3,513,670
売上原価	1,351,258	1,593,016
売上総利益	1,615,878	1,920,654
販売費及び一般管理費	1,107,206	1,217,216
営業利益	508,672	703,438
営業外収益		
受取利息	19	20
為替差益	-	7,223
助成金収入	2,000	-
補助金収入	-	8,740
受取ロイヤリティー	1,390	1,390
その他	1,455	610
営業外収益合計	4,865	17,984
営業外費用		
支払利息	-	0
創立費償却	-	361
為替差損	86	-
営業外費用合計	86	361
経常利益	513,450	721,061
特別利益		
投資有価証券売却益	1,000	-
特別利益合計	1,000	-
税金等調整前四半期純利益	514,450	721,061
法人税、住民税及び事業税	170,120	231,202
法人税等調整額	1,567	5,448
法人税等合計	171,687	236,650
四半期純利益	342,763	484,411
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	△793
親会社株主に帰属する四半期純利益	342,763	485,204

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	342,763	484,411
四半期包括利益	342,763	484,411
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	342,763	485,204
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△793

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(株式給付信託 (J-ESOP) における会計処理方法)

当社は、2015年10月29日開催の取締役会において、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して市場から購入した自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-ESOP)」を導入することを決議しております。

この導入に伴い、2015年11月13日から2015年11月26日の間に資産管理サービス信託銀行株式会社 (信託E口)

(現：株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)) が当社株式194,200株を取得しております。

当該株式給付信託に関する会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日) に準じて、信託の資産及び負債を企業の資産及び負債として四半期連結貸借対照表上に計上する総額法を適用しております。

なお、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する自己株式は、四半期連結貸借対照表の純資産の部に自己株式として表示しております。前連結会計年度末における計上額は136,928千円、株式数は177,500株、当第3四半期連結会計期間末における計上額は131,837千円、株式数は170,900株であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、システム開発事業とヘルステック事業を報告セグメントとしており、各報告セグメントの事業の内容は以下のとおりであります。

(システム開発事業)

医療システム開発及び医療データ集積・解析、オフィスシステムの開発

(ヘルステック事業)

医療機関経営コンサルティング及び医療データの分析、データヘルス

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	システム 開発事業	ヘルステック 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,948,674	18,462	2,967,136	—	2,967,136
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,227	56	2,283	△2,283	—
計	2,950,902	18,518	2,969,420	△2,283	2,967,136
セグメント利益 又は損失 (△)	665,605	△156,933	508,672	—	508,672

(注) 1. 調整額はセグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	システム 開発事業	ヘルステック 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,480,625	33,045	3,513,670	—	3,513,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,227	—	2,227	△2,227	—
計	3,482,853	33,045	3,515,898	△2,227	3,513,670
セグメント利益 又は損失 (△)	862,611	△159,173	703,438	—	703,438

(注) 1. 調整額はセグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

### 3. 補足情報

#### (1) 経営管理上重要な指標の推移

	2020年12月期 第3四半期 連結累計期間	2021年12月期 第3四半期 連結累計期間	2020年12月期
売上高 (千円)	2,967,136	3,513,670	4,004,859
営業利益 (千円)	508,672	703,438	636,283
経常利益 (千円)	513,450	721,061	643,362
四半期(当期)純利益 (千円)	342,763	484,411	430,457
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	—	△793	—
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	342,763	485,204	430,457
四半期包括利益 (千円)	342,763	484,411	430,457
純資産 (千円)	2,985,591	3,359,528	3,073,285
総資産 (千円)	3,540,938	4,060,167	3,796,913
1株当たり純資産 (円)	116.42	131.17	119.84
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	13.39	18.95	16.81

#### (2) 生産、受注及び販売の状況

##### ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績は、次のとおりであります。

事業部門	生産高 (千円)	前年同四半期比 (%)
システム開発事業	1,144,720	116.8
ヘルステック事業	133,657	155.2
合計	1,278,377	119.9

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. システム開発事業の生産高は、当期総製造費用によっております。  
 3. ヘルステック事業の生産高は、当期総製造費用によっております。

##### ② 受注状況

当第3四半期連結累計期間の受注状況は、次のとおりであります。

事業部門	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
システム開発事業	2,763,924	133.9	1,103,835	115.4
ヘルステック事業	56,245	178.4	18,000	1,964.4
合計	2,820,170	134.5	1,121,835	117.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### ③ 販売実績

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別売上構成及び販売・サービス種類別の売上構成は、次のとおりであります。

販売・サービス種類別	販売高 (千円)	構成比 (%)	前年同四半期比 (%)
システム開発事業			
ソフトウェア	1,943,516	55.3	114.3
(うち代理店販売額)	(408,172)		
ハードウェア	208,372	5.9	91.5
(うち代理店販売額)	(7,260)		
サポート等	1,330,965	37.9	130.1
ヘルステック事業	33,045	0.9	178.4
調整額(注2)	△2,227	△0.1	—
合計	3,513,670	100.0	118.4

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 調整額はセグメント間取引消去によるものであります。